

# 大日本塗料における環境への取り組み

Practical Approach to Environmental Issues in DNT

環境安全部  
Environment and Safety Department

渡邊 光一  
Koichi WATANABE



## 1. はじめに

「21世紀は環境の世紀」と言われているように、環境に対する意識が地球規模で高まりつつある現在、環境保全に対する取り組みが企業の社会的責任として厳しく問われるようになってきた。

塗料メーカーは数多くの種類の化学物質を使用し、その塗料製品は使用範囲も広く、また塗装品の消費者層も多岐に亘っている。

塗料は、人間が生活していくうえで欠かす事ができない大切なものであるが、時としてその取り扱い方を間違えると、人体や環境を脅かす有害物質として作用する事がある。

当社は、環境・安全・健康に配慮したモノづくりを基本に活動を続けてきているが、日本レスポンシブル・ケア協議会が1995年4月設立されたのを受け、その主旨に賛同し、レスポンシブル・ケア(以下RCという)実施を宣言、会員メンバーとして環境問題に積極的に取り組んできた。

また、会社としての環境に対する理念を明確に示すことが大切であるという考えに立ち、1996年4月にRCに関わる基本方針、行動指針、運営等、「レスポンシブル・ケアに関する規則」を制定し推進してきた。

以下、大日本塗料の環境への取り組み状況について紹介する。

## 2. 大日本塗料におけるRC基本方針、行動指針

### 2-1 目的

- 1) 当社は、「持続可能な開発」という理念のもとに、商品の開発から製造、流通、使用、最終消費を経て廃棄に至るまでの全過程において、会社が行う環境の保全及び人の安全・健康の確保のための自主活動に関する基本事項を定める。
- 2) 当社は企業経営におけるRC活動の重要性を認識し、その推進が、顧客、取引先、ひいては社会から高い信頼を得ることとなるよう、RC基本方針及び行動指針を定める。

### 2-2 基本方針

- 1) 全ての事業活動において地球環境問題に対する認識を深め、省資源、省エネルギー、製品の安全性、環境保全の確保に配慮した製品の提供を行う。
- 2) 操業に伴う環境保全及び安全・健康の確保に努め、エネルギー、廃棄物及び炭化水素類排出の低減を図る。
- 3) 地球環境問題について社員の意識高揚を図り、全社活動として展開する。

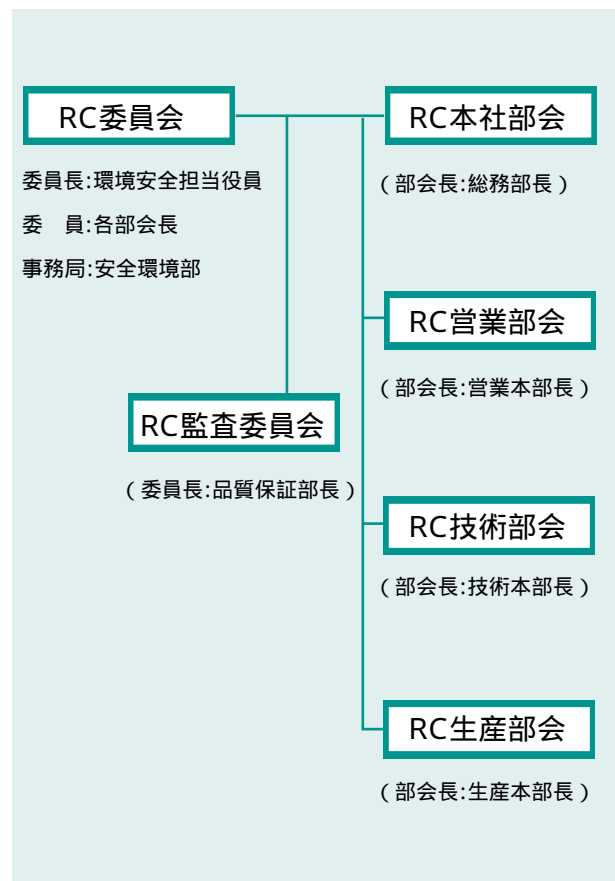
### 2-3 行動指針

- 1) 環境、安全・健康に配慮した製品を提供する。
- 2) 製造技術の向上により安全及び災害事故対策の整備に努め、製造時の環境、安全・健康を確保する。
- 3) 供給先での製品使用状況等の情報把握に努め、関連諸問題解決への支援を行う。
- 4) 製品の物流に関する車両及び貯蔵設備の適切な管理、輸送及び貯蔵技術の向上・事故対策の整備に努め、物流時の環境保全、安全・健康を確保する。
- 5) 事業活動に伴う産業廃棄物の減量化、再資源化、

適正処理化を推進し、環境の保全、衛生の確保に努める。

### 2-4 組織体制

大日本塗料では、下記組織体制のもとでRC活動を推進している。



## 3. RC活動の概要

RCの基本方針、行動指針に基づいて製品の研究開発から生産、物流及び販売を経て廃棄に至るまでの事業活動において、各部会単位で環境負荷の低減、環境の保全に努めている。

各RC部会の主な取り組み状況について以下に述べる。

RC部会	活動項目	主 な 内 容
本 社 部 会	取り組み体制の整備	・ 全社的な取り組み体制・社内規程類の整備
	広報活動	・ 社内報の活用による啓発 ・ ホ - ム ペ - ジによる社外PR
	事務系廃棄物の削減・リサイクル化推進	・ グリーン購入運動への参画、実施(再生紙の利用拡大) ・ 使用済み用紙の裏紙利用 ・ 用紙削減・社内リサイクルの実施 ・ 古紙の分別回収、リサイクル化
	省エネルギー対策	・ オフィス省エネ運動の展開 ・ 緑化運動の展開
営 業 部 会	輸送時の環境・安全の確保	・ イエローカード携帯の徹底
	物流における環境負荷の低減	・ 輸送の効率化、輸送方法の工夫(共同輸配送、帰り荷の確保等)
	環境・安全・健康に配慮した製品及び情報の提供	・ 環境保全型商品の普及、拡販 ・ 製品MSDSの提供 ・ 製品ラベルのPL表示 ・ カタログ・提出資料類の記載内容の充実 ・ 製品容器・包装の低減、リターナブル化の推進
	製品の製造責任に関する情報収集及び支援活動	・ PL苦情処理・再発防止 ・ 取引先の環境・安全管理の支援
技 術 部 会	環境負荷軽減型新製品・新技術の開発	・ 環境保全塗料の開発 ・ 製品中のVOC削減 ・ 製品中の有害物質削減
	化学物質の安全管理情報の整備・統括	・ 原材料・製品のリスクアセスメント実施及び安全情報(MSDS他)の収集・整備
	製品使用時における環境・安全の確保	・ 製品の長寿命化 ・ 塗装の省工程化 ・ 製品MSDS記載内容見直し整備 ・ カタログ・製品説明書・塗装仕様書への環境・安全、衛生情報記載
生 産 部 会	廃棄物の減量化、再資源化、リサイクル化、適正処理化の推進	・ 生産設備、工程改善による廃棄物発生量の削減 ・ 洗浄溶剤の削減及びリサイクル使用 ・ 廃棄物のリユース・リサイクル化 ・ 生産設備密閉化による大気への排出量削減 ・ 廃棄物の適正管理(分別管理、マニフェスト、適正処理のチェック)
	操業時のエネルギー消費量削減化	・ 省エネルギー型生産設備の導入 ・ 環境負荷低減型生産システムの開発・導入
	化学物質の適正管理	・ PRTR、MSDSによる化学物質の適正管理、「原材料安全ハンドブック」による日常OJT教育
	操業における環境、安全・健康の確保	・ 事業所単位による環境安全対策推進、無事故・無災害の確保 ・ 緊急事態への準備及び対応、各種訓練の実施。

## 4. 環境に配慮した商品・技術開発の取り組み

技術部門でこれまでに取り組んだ商品開発代表事例を以下に述べる。

### 4-1 室内環境対応形水系塗料の開発

「シックハウス症候群」、「化学物質過敏症」、「アレルギー」等で代表される新築内装建材からの揮発性有害化学物質の削減がある。

厚生省の「室内環境濃度指針」、(社)日本塗料工業会の「健康リスクに対する室内用建築用塗料の目標基準」等のガイドラインが設定される中、ホルムアルデヒド等の有害化学物質は勿論、揮発性有機物質を含有しないゼロVOC商品を開発し、「ノボクリーン」の商品名で上市し、更に抗菌、防カビ機能を付与した「ノボクリーン抗菌、防カビ」を上市している。

### 4-2 光触媒酸化チタン塗料の開発

直接人体に影響を及ぼすだけでなく、酸性雨や光化学スモッグを引き起こして自然環境破壊の一因となる大気汚染物質、窒素酸化物(NOx)を吸着、分解する機能を付与した光触媒酸化チタン塗料「Vノックスクリーン」を上市した。

### 4-3 省エネ形塗料の開発

クーラーのない生活はあり得ないほどに汎用化された空調機器、その便利さとは裏腹に夏場の電力消費量のうなぎ昇りに電力会社は悲鳴を上げている。

太陽光を反射して室温上昇を抑えたい。そんな夢を叶えてくれる、光高反射、熱高放射塗料を開発し、商品名を「クーデーエコクール」の商品名で本格的な市場開拓を開始した。

電力事情に一石を投ずるまでには到底至らぬまでも、省エネルギー形商品として大いに期待している。

### 4-4 省工程形塗料の開発

重防食塗装分野においては、塗装工期の短縮つまり塗装工程の短縮が強く求められる。

高湿度下での塗装を可能にし、速乾性で塗装インターバルの短縮は勿論、5以下の低温下でも硬化反応するため冬場や低温地域での塗装を可能にする一液湿気硬化形ポリウレタン樹脂塗料を開発し、「Vグランシリーズ」として市場の要請に対応している。

### 4-5 有害化学物質の削減と安全情報の提供

新たに制定されたPRTR対象化学物質等の削減化に取り組むと共に、MSDSの顧客へのスムーズな提供を実施し、安心して使用頂く為の安全情報の提供に取り組んでいます。

## 5. おわりに

以上のように、大日本塗料における環境への取り組みは、商品の開発から廃棄に至る各段階において、各RC部会が中心となって、様々な観点から展開を行っている。

環境対策は、これで良いと言う上限はなく、常に推進を図っていくことが要求されている。

企業に求められている環境保全への取り組みの方向性やルールをどのように実行し、成果に結びつけていくかは、個々の企業の施策にゆだねられている。

自分たちの活動が、どれだけ環境・安全・健康に影響を与えているかを正しく理解することで、社員一人ひとりに課せられた責務を認識し、自律的に改善を進めていくことで、さらなる環境効果が期待できるものと確信している。